

多摩地域史研究会会報

第163号 2024(令和6)年11月25日発行

〒207-0083 東京都茅ヶ丘4-1-35 103号 103号 103号

TEL: 042-668-0009 E-mail: tamatiken@yahoo.co.jp

Fax: 042-668-2366 (ホームページ現在休止中)

【第121回例会報告】 今回の例会は、10月19日(土)曇天の中で行なわれました。そして小林圭介会員に例会参加記を寄せていただきました。

【例会参加記】

「田無宿のルーツ 谷戸地区を歩く」参加の記録

小林圭介

(本会会員)

今回の例会は、10月19日(土)西東京市谷戸地区において、近辻喜一さん(本会委員会委員・郵便史研究会会長)を講師としてフィールドスタディが行われました。参加者は講師のほか6名でした。

例会当日は、西武新宿線田無駅に13:30に集合し、近辻さんから田無のルーツと言われる谷戸地区について、ガイダンスがありました。詳細な史料はないが、同地に元々住んでいた8軒に、久留米方面から来た職人集団が加わり、さらに三浦氏の落武者集団が進出して定住した等、田無の原住民層の由來説明がありました。

初めに見学した「谷戸公民館・図書館」には、戦前の中島航空機金属青年学校があり、田無は中島飛行機武蔵製作所(現在武蔵野市)に近いので、軍需工場の関連工業が多く立地していたと説明がありました。戦後は、山一証券グラウンドを経て、都営住宅が整備された際に、都に敷地を斡旋した経緯から、公民館・図書館の整備(1984年開設)に都が協力して「田無方式」と言われたそうです。

次に、谷戸新道に沿って南下し、東大農場を水源として、谷戸小学校グラウンド地下を通り、新道の東側に水路が抜けている箇所が2カ所(地上面は暗渠で、市の所有地)がありました。横山道に入

ったところには田無第二中学校があります。二中の敷地には、戦時中、中島飛行機の空襲迎撃のため、高射砲陣地があったが、米軍の大型爆撃機B29が超高度で来襲するため、あまり戦果には繋がらなかったようです。ここで、近辻さん(当時4歳)の記憶では、「高射砲の砲弾の破片が、自宅の庭にあった柿の木の枝を折り、庭には真っ赤に焼けたボール大の鉄片が落ちていた。家を直撃したら大変な被害だった。」とお聞きして、空襲下の恐怖が79年後の我々にもリアルに伝わりました。

最後に、西東京市郷土資料室(統合後の旧西原第二小学校校舎を転用)を訪問し、下野谷遺跡(南関東で最大級の縄文集落・国史跡)の企画展や様々な郷土史の収蔵品や精緻なジオラマを見学しました。

16:30に田無駅で無事解散。若干のメンバーで懇親会(近辻さんによれば「^{なおりい}直会」)に移動して、多岐にわたるテーマで話が盛り上がったことを併せて報告します。

最後になりましたが、近辻さんには今回の例会を企画の上、随所で貴重なエピソードを解説いただきましたことに改めて御礼を申し上げます。